

[ 自主研究 ]

## 埼玉県動植物画像・文字データベースの構築

嶋田知英 小川和雄 三輪誠 長田泰宣

### 1 目的

県内各地域にどのような動植物が分布しているのか知ること、種や生態系を保全し、生物の多様性を維持するために極めて重要で基本的な課題である。

また、このような情報を広く県民に提供することは、環境意識の向上や環境保全活動を支援するためにも重要である。

そこで、既に得られている県内動植物の情報を収集するとともに、生物相の調査を行い、埼玉県の動植物画像・文字データベースを構築する。また、そのデータベースを広く県民に提供する手法について検討する。

### 2 方法

環境庁「種の多様性調査」、「さいたまレッドデータブック」、県・各市町村や各種団体等が発行している自然誌など県内動植物の生息状況に関する文献資料を収集した。このうち、環境庁が埼玉県に委託し実施した「種の多様性調査」調査票の一部を、パーソナルコンピューターデータベースソフト (MS-Access) でデータベース化した。また、県内各地で動植物の現地調査を行い、データベースに反映させた。

次に、データベースを公開する方法として、インターネットのWEB(ホームページ)による公開方法やページのデザイン等についても検討を行った。

### 3 結果

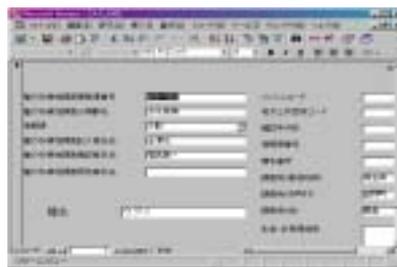
「種の多様性調査」のうち、鳥類、哺乳類、両生類、は虫類、淡水魚類に関する 4941 レコードの入力を行い、埼玉県産鳥類 241 種、哺乳類 24 種、両生類 22 種、は虫類 18 種のリストを作成した(第1図)。同時に、種ごとに記録のある市町村を地図上で塗り分けるスクリプトツールを作成し、MS-Access で集計し出力したファイルを元に、分布状況を示す地図を作成した(第2図)。また、鳥類及び、チョウ、トンボ等の昆虫を対象として独自に行った現地調査の採集・観察記録 946 レコードをデータベースに加えた。

データベースの公開方法としては、広く一般県民が利用できる、メンテナンス性に優れ、さらに公開のためのコストを低く抑えることが出来るインターネット WEB による公開が最も優れていると考えられた。そこで、HTML エディター(いわゆるホームページ作成ソフト)としてMS-FrontPageを使い、入力

したデータベースを元に、WEBの作成を開始した。WEBの構成については、将来的には検索機能を中心とした動的ページを目指しているが、HTML サーバーの大幅な設定変更などが必要となるため、当面、メニューを選択し、目的のデータへ辿り着くような、静的なページとなるよう設計した(第3図)。

### 4 今後の研究方向等

さらに県内動植物の生息状況に関する文献資料を収集し、データベースの充実を図る。また、標本や生態写真等を蓄積し、データベースとの連携を進める。そして、このデータベースを元に作成したWEBを公開する。



第1図 データベース入力画面



第2図 塗り分け地図



第3図 動植物リストのWEBによる公開